midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

February 2011 No.300

２月号の１枚：チェーンソー講習会を実施

［巻頭言］森の為に奮起する

実践力・行動力が世論を動かす力を持ち始めている

全ての生き物の生命を育んでくれる水や空気を与えてくれる森林が、人口増による無計画な焼き畑農法や違法伐採により、急激に消滅している。計算上で森林は、植林などを勘案しても今のままでは、地球上からあと400～500年で消滅してしまうと云う。

国土の69％が森林に覆われている先進国第２位の日本では、その森林をどのように保全していくかの方法が分からなく行き詰まっている。勿論、国を挙げてその対策を必死に探ろうと努力しているが、個人の尊厳が憲法13条・14条で定められ、私有林所有権も民法で保障されている為に手が出せないでいる。然し、森林の保全・再生と言う「国土保全・公序良俗」と言う観点から、私有林保護が無条件に認められて良い訳ではない。国法でコントロールできないのであれば、自治体条例で私有林所有権を満たしつつ、公権も満足する方法もある筈だ。

過日、水源地で開催された「水源の森林保全シンポジュウム」に出席した。講師は新進気鋭の2名の学者であった。先端的な視点による調査・分析・課題提起は、さすがだ。然し、ではどうすれば良いかと言う対策は、「分かりません」であった。勿論、歴史的な変遷、利害関係、時代の趨勢など問題は複雑でそう簡単に回答を出せる訳はない。当会は「頭から藪に突っ込んで行く」のが特色だが、その実践力・行動力が少なからず世論を動かす力を持ち始めている。議論の中で解決策を見出すのではなく、実践を通じて壁にぶっつかり乗り越えながら突破口を見出せるのではないか。そんな事を思って森林の蘇生・再生・保全の現場活動に奮起している。同感を持って協力してくれる人・団体が徐々に増えている。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2011.02

２月　６日（第一日曜日）；
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
２月２０日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]若柳嵐山の森

1月16日（第三日曜日）

新年、さわやかな始まり

新年、冬のピーンと張り詰めた空気、森の霜柱はデカイ。水滴がツララになったクリスタル。
この日の参加者は、学生連合NOVA６名、生命の森宣言５名、一般参加１８名、計２９名。

朝の会、準備体操後は、森の神様への新年のあいさつ、みなで安全祈願。今年は立派なしめ縄が神木杉の間に掛けられていた！“（松尾会員製！？）

・仕事始めは基地の整備・清掃・栗林の落ち葉を掃き清め・集め、カブト虫飼育箱に移す。
・又、先月、梅の剪定で切った梅の枝をまとめて焚き木用に揃える。和気あいあいと会話も弾みながら楽しい作業。梅の蕾達の付いた小枝はお土産用に。

・お昼はヒューヒューと冷たい風の中、皆、たき火のそばで料理班の心づくしのキナ粉餅と暖かい粕汁で身も心もホッカホカ！。

・午後は斎藤・緑のダム学校長のご指導による「チェンソー講習会」、丁寧懇切・細やかなポイントアドバイスを聞きながら、実習体験。オイル入れ、燃料混ぜ、分解、組み立て、刃の研ぎ、片付け方まで。

この日のメインイベント!?、新年会での始めの挨拶で石村さんより、森と都市を繋ぐ「甲州古道プロジェクト」の小仏峠（神奈川）～笹子峠（山梨）６０kmの踏査資料がナント！、国立・国会図書館の蔵書になった由。学生連合フォレストノバは、第8回全国大学生環境活動コンテストで５位入賞、FSC森林認証継続審査も無事通過など貴重な報告あり。今期の「輝く人」に川田・内野・石村会員、本当に身を削って森林蘇生活動に貢献する人々あり。福引商品には、ノバ手作りの木のインテリアなど多数、参加者は大喜び。

新年会開場・駅前カドヤのおもてなしの温かい料理とフレッシュ司会コンビ・ノバの斎藤学生、神宮学生の進行で、森の会らしい爽やかな新年会に酔った。今年も、ガンバロウ！。

伊藤　小夜子（本会、会員）

新年１回目から
精力的に活動、若柳嵐山の森

[報告１]
生命の森宣言・東京の森づくりについて

1月25日（火）

私たちは兼ねてより地球環境に関心を持ってきました。そこにご縁があって石村代表と「ＮＰＯ法人緑のダム　北相模」を知り会員とならせていただきました。

それ以来３年がたち、最初の２年は「小原本陣の森」で学生さん達と一緒に下草刈りや、すでに伐採されてその場に置かれている木々を土留用として、みんなで運び整備して来ました。

その場所が「若柳嵐山の森」に移り、その中のＡ地区(3000坪)を作業の場所として与えられ、毎月１回ですが、私たち５～６名が「小原本陣の森」と同じくひたすら整備作業をして来ました。冬期の今は間伐、伐採を手がけています。

整備前は薄暗い森だったのが、作業後振り返って見渡すと、明るいきれいな森に変身していました。私達はそれを見て、とてもすがすがしく、うれしくなりました。

これも石村代表をはじめ、川田さん、齊藤さん、丸茂さん、松尾さん、宮村さん、内野リーダーさん、その他の方々の親切、丁寧なご指導のお陰と感謝しています。

森は私たちに、きれいな水と気、災害の防止、美しい緑の風景、また河口では、木々の落葉によるプランクトンの繁殖とそれによる豊漁、その他たくさんの恵みを与えてくれます。またこの整備活動を通じて、私たちに健康と体力の維持、増強を与えてくれます。

日本の森林が再び元気を取り戻し、酸素をたくさん供給してくれ、立派な木材に育って、それが有効に活用されるよう願っています。

これからも、共に活動して参りましょう。

（生命の森宣言・東京、佐藤武行）

[報告２]　桂川・相模川流域協議会報告

1月22日（土）

先日行われた同会の「水源林の行方～山梨の水源林は？」に参加した。講演は都留文科大学泉桂子准教授、東京財団吉原祥子氏であった。

興味深い話として吉原氏の外資による日本の森林の買収についての話があった。この件はメディアで盛んに報道されているが、仮に外資でなくてもいい加減な森林施業をされてしまえば、外国資本規制論には意味がないし、名義のみ国内団体で実際は外資といった抜け道も考えられる。現在の展開されている感情的、排他的議論には疑問を感じるとのこと。森林資源や地下水について具体的なルール、規制が必要になっている。

全体を通しては、森林の健全化のためには、川下にあたる需要の創出なくして健全化、活性化はないのではないだろうか。今回も含めて、いまだその視点で論じられることはなく、本会はこの点を相模原市と協働し、検討していきたい。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告３]藤沢市立村岡中学よりお礼状

11月11日（木）

さる11月11日に当会事務局に「森林ボランティア活動」の取材に来た生徒さんから、心のこもった礼状が来ました。高島藍子、遠藤瑞歩、飯田帆南、内海亜優、青木由紀子（敬称略）の皆さんです。生徒さんたちは、礼儀正しく先生方の教育指導の真剣さも感じました。最近、環境問題が学校教育の中で、大きく取り扱われるようになって来たようにも思います。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告４]緑のダム湘南の森

12月25日（土）

この日の最初の仕事は、市役所が作ってくれた、自然保護の看板５基を設置することでした。沢山の人が訪れるこの森は、心無い人たちによって木や草花が持ち去られる事例が後を絶たず、エビネ、シュンラン、ギンランなどの山野草は絶滅寸前となっているのです。また、蝶の採集業者がカラスアゲハを大量に採っているとの話も聞きました。看板がこれらの行為のストッパーとなるかどうかは分りませんが、私たち森を守るものの意思として警告だけは与えたいとの思いで作られた看板、私が文章を作り、市役所がフリガナを付けて作ってくれたのです。

今年最後の作業はヤブラン平の周辺部で思い思いに枯れ木を伐採したり、残っているアオキや笹を刈ることでした。ここヤブラン平は、クリスマス寒波到来とはいえ、うららかな木漏れ日がさし、快適な作業環境です。もう水仙も咲いていますし、タブノキの赤い芽も膨らんでいます。もう春の気配がほんのりと漂っているのでした。マンリョウも赤い実をつけて正月気分を演出してくれました。最後にともしびショップで反省会をし、来年の再会を期して帰途に着きました。

佐藤　憲隆（緑のダム湘南の森）

[報告５]全国大学生環境活動コンテストに参加

Forest　Nova☆は12月26日(日)、27日(月)に立正大学で行われた全国大学生環境活動コンテスト2010(通称：エココン2010)に参加しました。これで4度目の参加になります。ここでは昨年の活動の集大成を発表し、全国の環境学生団体と競い合いました。

今回のエココンは「斬新」、「動かす」、「信頼」、の三つをテーマにプレゼンを行いました。

一日目予選、全52団体の中で8グループに分けられ、自分達は6団体の中で競い合うグループCに振り分けられました。Forest Nova☆は、「人と森との共助共生社会を目指す」という理念のもと、地域と都市と森の関わりを重視した取り組みをコンセプトに、１haの森や活動費などを自分たちで賄っていることなどを強みにパワーポイントなどを通してプレゼンをしました。そして審査委員からの質問にも、事前に対策を考え、皆で助け合いながらも答える事が出来ました。

去年は、おしくも、獲得票が僅差で本選へ行けませんでしたが、今年は他の団体と接戦の上、見事予選を通過する事ができました！

そして二日目最終選考、予選を通過した8団体と自分達は競い合いました。Forest　Nova☆は一日目同様プレゼンをし、10分間のアピールタイムを通して、私達が4年間コツコツと積み重ねてきた活動が信頼に

上：プレゼンを行うForestNova

左：湘南の森より

繋がった事や、来年は地域の方々を森に呼ぶなどの展望をアピールしました。

しかし最終選考に残ったグループは、流石に活動の質が高く、アピールタイムでも時間がオーバーしてしまうほど積極的な団体ばかりでした。

最終選考の結果は五位で、一位は取れませんでした。個人的には、若干プレゼンなどの派手さに捕われて、活動団体の内容が評価されていない節があったと思います。

だけど、自分の活動スタイルは曲げず、来年こそ一位を取るためにも、今年も元気よく活動して行きたいと思います！

竹内　翔容（Forest Nova☆）

[コラム]「森の話」
第１回　キノコは木の母

森の中でひょっこりと顔を出しているキノコ。小原や嵐山の森でもよく見かけます。近頃では、若い女性に人気があるようで、私の勤務する高校には「キノコ研究班」なる怪しげな部活さえ存在します。部員のほとんどは女子（顧問は私）。可愛らしくてミステリアス、しかもちょっと危険な雰囲気を醸し出しているところが乙女心をくすぐるのかも知れません。ところで、「キノコって何？」と改めて問われたら、どうお答えになりますか？

手短にいえば「カビなどを含めた菌類の繁殖器官（胞子をつくる器官）のうち肉眼でも見える大きさを持つもの」という少々いい加減な定義となるでしょう。そう、キノコとは実は学術的な用語ではなく、多分に習慣的な呼び名なのです。繁殖器官ですから、植物でいえば、花や果実のようなもの。本体は地中や材の中に蔓延しているクモの巣状の器官で、菌糸と呼ばれます。

キノコを含む菌類は少し前までは植物の仲間に入っていました。胞子で増えること、動物のようには動き回らないことなどが根拠となっていたようです。余談ですが、当時、裸子植物、被子植物は高等植物に、シダ植物、コケ類、キノコなどは下等植物に区分けされていたそうです。その下等植物を研究している人を「下等植物学者」といったとか、いわなかったとか。

さて、現在では菌類は動物、植物と対等の独立した生物群と考えられています。諸説ありますが、生物界は大まかにいってこの３者から成り立っていて、菌類はそのうちの分解者に位置付けられています。動植物の遺骸を植物が再び栄養として利用できる形に還元してくれる重要な役割を担う存在です。林業家にはとかく嫌がられる菌類ですが、もしこの世に菌類がいなかったなら、森はきっと倒木だらけで足の踏み場もなくなってしまうことでしょう。

私たちの目につきにくいところで黙々と働いているキノコ、森の健康を縁の下で支えてくれるキノコ。キノコという名は「木の子」から来たものですが、「木の母」といってよいのかもしれません。

内野　郁夫（本会、理事）

ナラタケモドキ
食用ですが、食べ過ぎは禁物。下痢を起こす。

[事務局からの
お知らせ、お願い]

９月号から会報の郵送を取りやめています。継続して郵送を希望される方は以下をお読みください。

現在、会費は３千円です。最近はNPOが増えているため、助成金の確保が難しくなっています。総会で決まった通り、事務費低減のため、会報は当会ホームページの閲覧を原則として、従来通りの郵送をご希望の方には、郵送費（１千円）を負担して頂きます。（ご希望のない場合は郵送は致しません）
ご協力よろしくお願いたします。

木工班メンバーを募集しています

木工班では、班長見習い１名、メンバー２名を募集しています。

間伐した木材を活用し、ＦＳＣ認証の森のグッズの商品化を目指しています。若柳嵐山の森の伐採現場での簡易製材、オリジナリティある製品の企画や製作に参加してくださる方を募集しています。

今まで実際に製作したものは地元の福祉協議会や駅前の飲食店に納入、活用されています。

興味がある方は事務局までご連絡ください。

「間伐・間伐材利用コーディネーター養成研修」報告

国土緑化推進機構が主催したみどりのボランティア活動助成セミナー2010の報告書が同機構のウェブサイトにアップされています。同研修では本会石村が統括報告２として、「多様な主体との連携・協働により間伐材利用～国際FSC認証林管理～」と題して講演を行いました。報告は同サイトの

『間伐・間伐材利用コーディネーター養成研修（グリーン・カレッジ2010）』報告書

(4).２日目［セッション①／間伐材利用の仕組み・体制づくり］

http://www.green.or.jp/bokin/download/tokutei10-ref04.pdf

からご覧頂けますのでぜひご一読ください。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸・・何か美味しいものを準備する)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を@に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ